

今日のトピック 米国の雇用統計 (2016年6月) 雇用は増加の勢いを回復

ポイント1 雇用者数は28.7万人増 増加基調に変化は見られない

- 2016年6月の非農業部門雇用者数は前月比28.7万人増となり、市場予想（ブルームバーグ集計）の同18.0万人増を大幅に上回りました。
- 前月の雇用増加数は僅か同1.1万人増にとどまりましたが、やはり一時的な鈍化だった公算が大きいと考えられます。

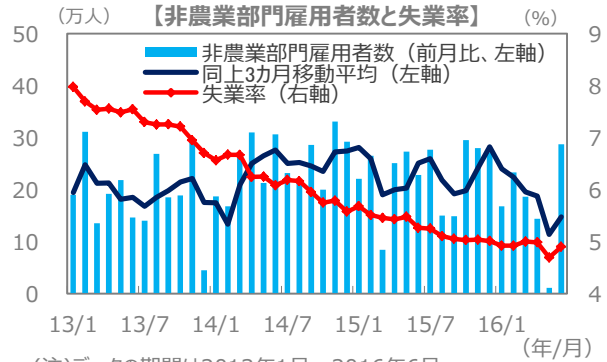
ポイント2 失業率は4.9%

賃金上昇率は前年比+2.6%

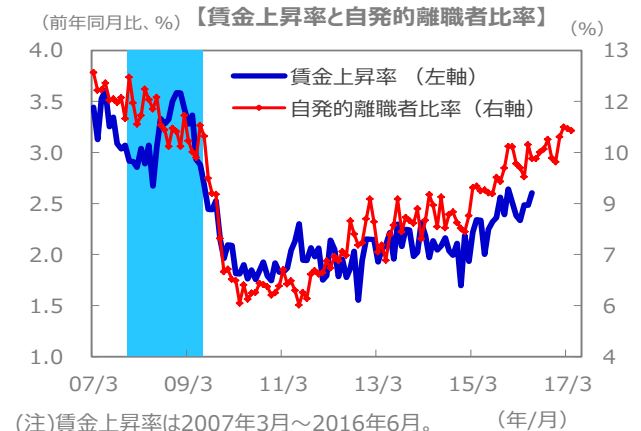
- 他方、失業率は、4.9%でした。前月に比べ0.2ポイントの上昇です。労働需要（就業者）は増加したものの、それ以上に供給（労働力人口）が増えたためです。これまで就職を諦めていた人達が、景気回復とともに職探しを開始したと考えられます。
- 賃金上昇率は前月比+0.1%、前年同月比で+2.6%となり、それぞれ市場予想の+0.2%、+2.7%を下回りました。もともと、自発的離職者比率の上昇が示す通り、労働需給は引き締まりつつあり、賃金上昇率も緩やかながら加速しています。

今後の展開 景気は緩やかに拡大

- 雇用統計を受けた8日の米国株式市場は、大幅に上昇しました。事前の市場予想を上回る雇用者数の増加などから、米景気の失速懸念が後退したためです。
- 一方、米国債利回りは低下、米ドルの対円レートは小幅な下落となりました。債券と為替は、失業率の上昇や、賃金上昇率が事前の予想に届かなかったことに、より強く反応したと見られます。また、世界



(注)データの期間は2013年1月～2016年6月。
(出所)米国労働省のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注)賃金上昇率は2007年3月～2016年6月。
自発的離職者比率は2006年5月～2016年6月。
自発的離職者比率は10カ月先行。網掛けは景気後退期。
(出所)米国労働省のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

的な景気の先行きへの不透明感から、米連邦準備制度理事会（FRB）は、利上げを急がないだろうとの市場の見方も反映されたためと見られます。

- 米景気は拡大を続けていますが、この先、利上げはあっても、ペースは緩慢で、少なくとも7月利上げの可能性は低いと見られます。株価は当面、景気、企業収益の拡大を織り込む展開、国債利回りも低い水準にとどまる見通しです。

ここも
チェック! 2016年7月 7日 米国のISM景況感指数 (2016年6月)
2016年6月23日 イレンFRB議長の「議会証言」(米国)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。